

# 日本語Ⅲ

内藤 真理子（関西学院大学日本語教育センター）

森本 郁代（関西学院大学法学部）

## 1. 到達目標

2年生対象の日本語Ⅲでは、1年生で培った基礎的な日本語力を土台に、大学におけるアカデミックな活動を十全に行える日本語力を養うことを目指している。

## 2. 2014年度の授業内容

大学におけるアカデミックな活動に日本人学生と同等に参加できるレベルの日本語の能力の向上と、日本語で自分の意見を述べたり批評したりする力を養うことを目的としている。週2回の授業のうち、水曜日は「話す・聞く能力」、金曜日は「読む・書く能力」の育成を目的とした授業を行っている。

### 2.1 水曜日

本授業で目標としたのは、1)「考える力」を身に付ける、2)情報を収集し、それを使いこなす力を身に付ける、3)「コミュニケーション能力」を伸ばす、の3点である。学生の多くはディベートをしたことがなかった。このため、単純な形のピンポンディベートからはじめて、徐々にディベートの形を複雑化させることで、試合形式に慣れることができるようにした。また、すべてのミニディベートと練習用のディベートの論題を「日本政府は死刑制度を廃止すべきである」という共通のものにすることで、情報収集に振り回されることなく、情報の分析や論理展開の妥当性の検討に注力できるようした。最終的には、「日本政府は遺伝子組み換え作物の輸入を禁止すべきである」「日本政府は遺伝子組み換え作物の輸入を禁止すべきである」の二つの論題を使って、クラス内とクラス対抗でそれぞれ試合を行った。

### 2.2 金曜日

新書（『科学コミュニケーション』岸田一隆（著）平凡社新書）をテキストとして、グループに分かれて行うピア・リーディング活動を行った。互いの見方や解釈を共有することでテキストの理解を深め、意見や批評の論点を発見することを試みた。最後に、テキスト全体の批評文を800字程度で書き、批判的思考力の養成とともに、自分の意見や批評をある程度の長さの文章で書く能力の向上を図った。

### 3. 成果と今後の課題

#### 3.1 水曜日

学生からの授業評価はおおむね高い評価を得た。授業改善につながる意見としては、「練習ディベートと本番ディベートの双方の準備が並行しているので混乱した」「本番ディベートを授業で扱う時間が少ない」「資料の集め方についての説明が不十分」がある。また、教員からは「総括の説明にもっと時間を割いてほしい」という希望が出された。授業の大枠としては今年度のもので問題ないと考えるが、細部には改善の余地があるため、今後は上記の意見等を参考に授業設計を見直していきたい。

#### 3.2 金曜日

金曜日の授業に関しては、従来と同様にピア活動を導入した。テキストの読解に困難を感じたり、興味がもてなかったり、筆者の主張に納得できない受講生が少なからず存在した。そのため、特に読解に関しては、タスクシートを使ったピア・リーディングによって理解を深められるようにし、また各章が終わるたびに、内容の確認や要約文の作成、意見交換を促すグループワークを取り入れた。レジュメの作り方が向上するなど、一定の成果は見られたが、さらなる改善が必要である。